

科目名称			担当教員		
介護福祉論			足立 まり子		
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	無
<b>授業の概要(Course Description)</b>					
<p>超高齢社会を迎え、厚生労働省福祉人材確保専門委員会は「2025年に向けた介護人材の確保」という報告書をまとめた。その中で介護人材の量と質の確保に向けた総合的な取り組みを行っていく必要があると公表した。この現状を捉え高齢者や障害者が住み慣れた地域で共に暮らすための支援や人間の尊厳・自立支援、ICF、介護保険制度等、介護福祉について理解し活用する必要がある。本講義では、人間の理解や尊厳、自立に向けた介護の基本など解りやすい説明を行う。介護を身近に楽しく実感してもらうために演習を取り入れながら行う。</p>					
<b>授業の到達目標(Course Objectives)</b>					
1・高齢者や障害者の施設やサービス、そこでの自立支援が理解できる。2・ノーマライゼーション、QOL、ICFの考え方が理解できる。3・社会、介護保険制度の仕組みが理解できる。					
<b>授業計画(Course Schedule)</b>					
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、学習の進め方、介護人材確保対策			
第 2 回	生活支援としての介護	介護とは、介護の専門性、個別ケア 演習			
第 3 回	人間の多面的な理解と尊厳	人間を理解すること、人間尊厳の意義など			
第 4 回	自立・自律の支援	介護における自立、自立への意欲と動機付けなど			
第 5 回	人権と尊厳	介護における権利擁護			
第 6 回	尊厳保持、介護の考え方	自立に向けたICFとは、自立に向けたリハビリとは			
第 7 回	QOL, ノーマライゼーション	その人らしさの尊重、プライバシーの保護など			
第 8 回	介護を必要とする人の理解	私たちの生活の理解、 演習			
第 9 回	〃	高齢者や障害を持った人の暮らしと介護			
第 10 回	介護保険制度の理解	制度創設の背景と目的、制度の基礎的理解など			
第 11 回	〃	制度における専門職の役割			
第 12 回	社会の仕組みの理解	生活と福祉、家族・家庭、地域、ライフスタイル			
第 13 回	〃	社会保障制度			
第 14 回		障害者自立支援制度			
第 15 回	まとめ				
<b>授業時間外学習(Supplementary Activities)</b>					
①前回の授業の振り返りを実施するので、復習しておくこと。②介護福祉に関する法律や制度など複雑であるため用語や単語をよく調べておくこと。③プリントは整理してファイルしておくこと。					

評価方法 (割合)	評価基準
期末試験 (60%) 小レポート (20%) 授業態度 (20%)	秀：授業テーマに関する必要な知識を十分に習得できている、かつ、問題点を的確に指摘し、優れた考察がなされている 優：授業テーマに関する必要な知識を習得できている、かつ、問題点を指摘し、自分なりの考察が行えている 良：授業テーマに関しておおよそその知識を習得できている、かつ問題点に気づき、自分なりの考察が行えている 可：知識の習得や問題点の気づき・考察において、最低限の水準を満たしている 不可：知識の習得、問題点の気づき・考察が不十分である
テキスト(Textbook)	<b>【書名】</b> <b>【著者】</b>  <b>【出版社】</b> <b>【出版年】</b> 毎回参考文献を活用しプリントして授業で配布する
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	介護の基本1、介護福祉の「専門性」を問い直す
備考 (Other Information)	3分の1以上（6回以上）の欠席は、単位不可とする
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	授業の最初に指示する